

(英語版)

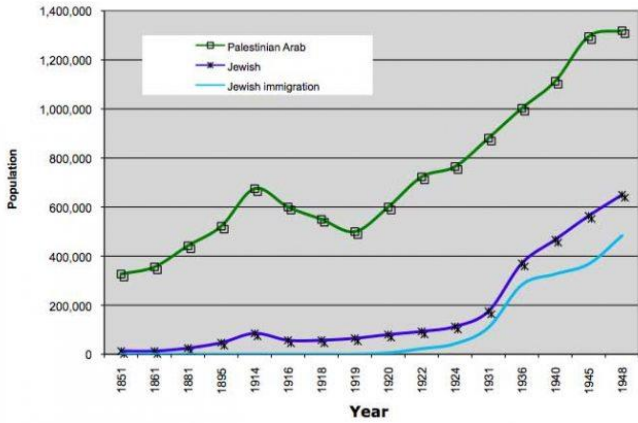
(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (二十八)

第一章 民族主義と社会主義のうねり (十二)

二十八・イスラエル独立(その三)・・・流入するユダヤ移民に押し出されるパレスチナのアラブ人 (一一三)



世界のユダヤ人口は約一千四百万人であり、その大半は米国とイスラエルに住んでいる。イスラエルのユダヤ人口は六百三十万人で全ユダヤ人口の四十五%に相当するが、イスラエル一国(総人口八百五十万人)で見ると同国人口の四分の三を占めている。

しかしイスラエル建国前のパレスチナ時代にユダヤ人がこれほど多かった訳ではない。第一次世界大戦直後の1920年代初めのパレスチナの総人口は七十五万人で、そのうちユダヤ人は約八万人であり、総人口に占める比率は一割強にとどまっている。絶対数では現在の八十分の一、比率でも八分の一程度だったのである。

シオニズム運動とバルフォア宣言の後押しにより第一次大戦前後にヨーロッパ各地から多数のユダヤ人がパレスチナすなわち「シオンの土地」へと移住した。それは「アリヤー」と呼ばれ十九世紀末から1920年代までの第一次アリヤーから第四次アリヤーまでの間にほぼ二十万人がパレスチナに押しかけている。そしてナチスドイツのホロコーストが始まるとユダヤ人たちは我先にヨーロッパを脱出、その多くは米国に向かったが、イスラエルに移住した者も二十五万人に達した(第五次アリヤー)。この結果第

一次大戦直後に七十五万人であったパレスチナの総人口はその後わずか二十年たらずの間に百五十万人に倍増したのである。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakahazuyai@gmail.com